

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100453		
法人名	社会福祉法人 真光会		
事業所名	グループホーム 三和苑		
所在地	熊本県熊本市城山下代3丁目6番2号		
自己評価作成日	平成21年10月13日	評価結果市町村受理日	平成21年12月8日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 PRENET21福祉事業部		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成21年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活リハビリを通して、本人の出来る事を見出し、意欲的に取り組めるよう支援している。例えば、レクリエーションを通して、楽しみながら自然と体が動くようにしたり、出来るという喜びを感じて自信につながるように努めている。また、散歩の際に地域の方の家に訪問して交流を図り、利用者の方に地域の一員ということを感じて頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同法人には3事業所のグループホームがあり、それぞれが年間の目標を独自に設定し、結果発表の場にむけ、切磋琢磨していることである。この事業所の今期の目標は、おむつ利用者の排泄の自立を目標に掲げ取り組んでいる。トイレでの排泄やおむつを使用しない生活が、いかに生きる意欲や自信の回復につながるかを全職員が理解しているかである。綿密な排泄のチェックを行ない、段階的におむつの必要ない生活へと導いている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの基本方針と4つの理念「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域密着・地域との連携」を玄関に掲示し、常に理念をもとにした介護に努めている。また、ミーティングの際に確認し、周知している。	三つの和という基本方針と四つの理念の中には、利用者にとっての地域生活の継続支援と、事業所と地域との関係を重視した内容が盛り込まれている。また毎日の申し送りでは、理念を掘り下げて話し合い、具体的なケアに生かすようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の清掃活動に参加するように努め、また、2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、認知症への理解を得るよう努めている。毎日の散歩で地域の方との交流を図っている。	月1回は、事業所として地域の清掃活動に参加し、住民との交流を深めている。また2ヶ月に1回の運営推進会議では、認知症の理解や日常的な散歩では、地域の人達と挨拶を交わしたり、話しをしたりして地域との接点作りに努めている。	町内会や自治会が行なうリサイクル活動等へも地域の一員として積極的に参加の意向を示し、交流の一助として下さい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深める啓発活動や、サポーター養成講座等へ参加し、認知症へ関心を持っていただけるように努めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の自治会、民生委員、老人会の方々に利用者のケースを取り上げ意見交換を行なっている。	2ヶ月に1回の運営推進会議のメンバーは、自治会、民生委員、老人会等の方々に構成されている。利用者のケースを取り上げながら、認知症の理解やグループホームの役割等を知って貰うことから始めている。また民生委員の仕事内容等についても話してもらう機会を計画している。	運営推進会議では、内に居ては気付きづらい改善課題や事業所の社会的役割を外部の人々の目も含めて話し合ったり、地域の理解や支援を得るための絶好の機会です。今後さらに、質問・意見・要望と双方向的な会議を目指して頑張ってください。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の集団指導や連絡協議会などに参加し、担当者より現況や指導を受けている。	重要事項説明書の件等事業所の相談に対し、市担当者は、実直に対応している。また市主催の集団指導やグループホーム連絡協議会などには参加し、市担当者との関係作りにも取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、問題意識を共有するため会議を通じて話し合い行なっている。また、日頃から拘束をしないケアに努めている。	法人には身体拘束廃止に向けた委員会があり、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関の施錠は防犯の為、夜間のみ行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で取り上げ、学習している。また、現場でも日頃から「何が、どういう言動が虐待にあたるか」等について職員で話し合って互いに注意している。		

事業所名:グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターの担当者より指導を受け、必要な方には窓口を紹介している。また、権利擁護に関する研修会で学んだことを職員へ伝達している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたっては、契約書や重要事項説明書を読み上げたり、補足説明をしたり、遠慮のない質問を受けたりした上で署名、捺印にて同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者苦情受付窓口を準備し対応している。また、介護相談専門員が毎月訪問し、面会により利用者の意見が反映されている。	玄関ホールには、ご意見箱や第三者苦情受付窓口のポスターも掲示しており、利用者や家族へは何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また介護相談専門員も毎月受け入れており、利用者の意見が反映されるような取り組みを行なっている。	利用者の高齢化や症状の進行も現実のものとなって来ており、自分の思いや意見を上手に表すことができない利用者が増えることも予想されます。今から取り組みについて話し合いを持つことが望まれます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営規定をもとに目的や方針をミーティング等で話し合い、職員間で意見交換を行い、改善する点は改善している。	毎月1回、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。その際、事前に問題提起を行ない、考えを整理して参加してもらうようになっている。また、副施設長も出席した上で上下関係無く、忌憚のない意見交換を行なっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート、OJT計画書の作成により取り組んでいる。現場の勤務実態、努力、実績、悩み等を観察したり、日誌、各種報告書、直接の面接などで把握するように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修参加等により、研鑽に努めるようすすめている。また、外部研修にもできるだけ参加し、他の職員にも情報を提供するため、会議の時に発表の場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回開催される三和地区合同会議に参加して情報交換したり、サービスの質の向上に向けた学習会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人との面談を行い、本人のこれまでの人生、現在の意向、家族の考え等を確認している。また、担当ケアマネジャーとの連携を図るようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込書を基に面談を行い、これまでの人生、家族の願い、悩み等を確認し、担当ケアマネジャーとの連携を図るようにしている。また、ホームの介護方針、サービス内容、他の利用者の実情等もよく説明し、十分ご理解して頂くよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が見学、来訪し、何を必要としているか、どういう支援が必要か見極めている。また、他のサービス事業所の紹介や市の窓口や地域包括支援センターの情報を提供している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、一日の生活の中で、気付きの部分を大切にしながら、本人の意思に添うようなケアに努め、出来る事は極力本人に行なっていただいている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護サービスはホームと家族の協同作業だと考え、行事の時はもちろん普段から頻繁に訪問、面会に来て、意見・感想・願い等を遠慮なく述べてもらうよう呼びかけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、友人・知人が来訪しやすいように支援している。	家族の協力を得て、馴染みの友人や知人の来訪に力を入れている。また隣接のデイサービス利用者の中に友人・知人がおられるので、積極的に交流の支援を行なっている。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置などを考慮し、居心地の良い場を提供できるよう努めている。また、職員が仲介に入り、話題を提供し、日常の中で助け合う場面作りに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	広報紙などを活用し、状況に応じ、様子を伺ったり、相談員に連絡をとるなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方、好み、生活習慣、希望等を確認するようにしている。表を作り、全職員がそれを見て理解したり、新しく分かったことは更に書き加えたりするようにしている。	利用者一人ひとりの思いや意向を把握するために本人、家族またケアマネージャー等から情報を収集し、個人こじんの介護マニュアル(表)を作成している。全職員が、それを理解し、新しい情報は更に追加し、より利用者の希望に添うサービスが出来るよう心掛けている。	今後、利用者の高齢化や症状の進行に伴い、思いや意向の把握がより困難になることも予想されます。その場合の対応についても、早めの準備をお願いします。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴を、本人、家族、ケアマネージャーに確認し、馴染んだ暮らし方やこれまでの経過の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を細かく観察し、利用者のしたいこと、出来る事、不安に感じていることなどを総合的に把握するように努めている。また、生活リハビリを中心に本人の意思を尊重し個別支援に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医を含めた担当者会議にて、それぞれの意見を介護計画に反映させている。また、ミーティングにおいても介護計画を見直す機会を設け、職員の意見も反映するように努めている。	利用者主体の暮らしを反映した介護計画になるよう、本人、家族、主治医を含め担当者会議を行ない、幅広い意見を収集するようにしている。またミーティングにおいても、介護計画を見直す機会を設け、職員の意見も反映し、現状に即した計画になるよう努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録や日誌にその日の状態や気づきを記入し、全職員が目を通して情報を共有している。また、ミーティングにおいて介護計画について話し合いを行い、評価や見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行い、臨機応変にその人らしさを活かすような支援をしている。散歩や洗濯物干し、カラオケなど個々の好みや得意なことを取り入れた支援に努めている。		

事業所名:グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を中心に地元の指導的立場の方々の協力と支援を受けている。近くのサービス、特養等の行事に参加したり、運動公園へ散歩・見学したりしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を大切に、了解を得ながら、かかりつけ医や協力医と継続的な連携のもとに医療を受けている。特に協力医は隣の建物に常時いて、何かあるとすぐにかけてくれるので、利用者・家族の安心を得ている。	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医の受診支援を行なっている。基本的には、家族に同行をお願いしているが、緊急の場合は、職員が対応している。また隣りが協力医で、何かあるとすぐ駆けつけてくれるので、利用者、家族からは喜ばれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職より、日常の健康状態管理の支援を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をされた場合、しばしば面会をして状態伺いをすると共に、医療機関との情報交換を行いながら早期退院に結びつけるようにしている。また、長期入院にならないように、その都度病院に相談し、理解と協力をお願いするよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を家族に説明し、契約を交わし、同意書にて確認している。	重度化や終末期に向けた方針については、事業所として指針を作っており、契約時に家族に説明し、同意書にサインを頂いている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修において救急法の講習と実技訓練を受けた。(5月)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行い、運営推進会議等で地域の方々に報告をし、緊急時には協力して頂けるように努めている。	消防訓練(避難訓練)は、年2回行っており、夜間を想定した訓練も行なっている。また地域の協力体制については、運営推進会議の中で協力を呼びかけている。	災害に備えた備品等の準備、食料、飲料水、トイレ、寒さをしのげるものなどを準備することも検討されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いと接し方で敬意を表す対応をしている。また、個人記録などプライバシーに関する管理は厳重にしている。	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねたりすることが無いような言葉掛けや接し方に努めている。また個人情報の取扱いと管理については、厳重な配慮を行なっている。	恥ずかしいことは、人前では決して行なわない。また誘導の声掛け等も、目立たずさりげない対応をお願いしたいと思います。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、意思を確認して自己決定できるように促がすと共に意思に添うように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者がその人らしく過ごせるよう、当人のこれまでの生き方を良く調べ、当人の好みや、やり方、ペース、希望、誇りなどの意向を優先した個別の対応をすることによって、介護の質を向上させようと努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が訪問し、本人の希望や好みを伺いながら対応している。毎日の化粧・身だしなみ・整容についても個別に本人の要望に添いながら支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく好物を取り入れたメニューを献立に取り入れ、メニュー作りや調理などを工夫している。ゆったりとした雰囲気の中で食事が摂れるように音楽をかけるなどしている。また、後片付けができ利用者に対しては、声かけを促がし、職員と一緒にしている。	食事が楽しみなものになるよう旬の食材や新鮮なものを使用し、利用者の好物を取り入れたメニュー作りを心掛けている。また後片付けなどでは、利用者の力に合わせて職員と一緒にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを表を用いチェックしている。また、身体状況や体調に応じ、食事形態を工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常のブラッシング援助や口腔内のチェックを行い、定期的に歯科医の訪問による受診を行い、必要に応じて治療している。		

事業所名:グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックを行い、一人ひとりのパターンに合った支援に努めている。また、必要に応じては、利用者に合った下剤を服用してもらっている。しかし、安易な下剤の使用は戒め、自然な自力排泄を目ざすように努めている。	トイレでの排泄やおむつをしない生活は、生きる意欲や自信の回復に繋がる為、一人ひとりの力や排泄パターンをチェックし支援に努めている。今事業所では、段階的におむつを外す取り組みを実証中である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理する際に食物繊維を多用している。個人別排泄パターンを把握し、習慣的な排泄を促すようにしている。また、日中の活動量を増やすために簡単な体操を行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二日に一回の入浴施行。一人ひとりの体調に合わせてたり、本人の希望や時間を取り入れ支援している。	入浴は2日に1回の割合で行なっている。利用者一人ひとりの体調を見ながら支援しているが、拒まれる場合もあり、その際には、相性のいい職員が対応するようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンの把握に努め、日中の活動を促し、生活リズムを作ることを心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬剤情報を記録し、用法や用量などには十分注意をはらうようにしている。薬剤の管理場所は職員室にて管理している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話により、本人の興味などを聞き出したり、本人が行なえるところは本人ができるように声かけ、見守りを行なう。役割を果たした充実感や楽しみごとの喜びを感じてもらおう工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人に声かけをし意思を確認し希望に添って散歩、買い物を行なっている。また、苑外の行事を取り入れている。	天気の良い日には、日常的に本人に声掛けし、意思を確認した上で散歩や買い物の支援を行なっている。体調のいい利用者が、車椅子を押して散策している姿も見られた。また四季折々の花の観賞なども苑外行事として取り入れている。	

事業所名:グループホーム 三和苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望している物品を購入する際は、預かり金の中から使えるようにしている。できる限り本人に値段や残金を十分に納得してもらい、お金を持って直接買っていただけるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族に電話をかけたり、家族より手紙が届いたときには、なるべく本人の気持ちが伝わるように相手に電話をかけるなどしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファを置き、季節感を感じていただけるような壁面に貼り絵をしたり、手作り品などで飾り、居心地のよく過ごせるようにしている。	壁面を利用して、たくさんの作品が掲示してありました。利用者のぬり絵や利用者職員との共同作業による作品などでした。共用空間が大変明るく、季節感もあり、居心地いい空間を演出していました。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、テレビ、椅子など配置を考え、安心して過ごせる居場所ができるようにし、利用者同士が交流を図れるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ調度品や日用品を使用し、本人が居心地よく過ごせるようにしている。	使い慣れた調度品や日用品を持ち込み、居心地よく過ごせるような支援を行なっている。希望があれば、ベッドの持ち込みも可能である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の前に名前札で目印をしたり、トイレの場所を標すなどし、本人が分かるようにしている。自室の確認はほぼ全員ができるようにしている。		